

製造業

- ◇パン…また脱退業者が増え困っている。利益が少なく費用が多すぎる。子供達の食育の為に頑張っているが限界にきている。この先の営業が不安である。また衛生規制がより厳しくなり微小のことも大きく取り上げられ、改善には努めているがなかなか難しい。
- ◇酒…10月の課税移出数量は、前年比99.3%とやや落ち込んだ。しかし、特定名称酒においては前年比117.3%と大幅増。普通酒は92.6%と落ち込みが続いている。特定名称酒の増加は全国的にみられる傾向で、消費者の高品質志向が定着しつつある。また、焼酎については106.2%。清酒輸出は依然として順調な伸びを示しており、国際空港免税店エリアでの試飲販売も好評。ANAラウンジでは、試飲コーナーへの出品など平成30年2月までロングランでの「國酒PR」も継続実施中。10月2日から11月1日まで、茨城空港免税コーナーにおいて茨城の地酒キャンペーンを開催（正味販売時間1.5時間程度）、結果27日間計469本・951千円（1日平均35千円）となり、キャンペーン以前比200%、金額で171%と効率的な実績。
- ◇納豆…原料・資材及び人件費・電気代の高騰にも関わらず、納入単価は据え置きのまま。業界全体が消費拡大傾向にあるのに、収益の悪化が続いている。特徴のない企業は、特に苦境にあると思われる。
- ◇菓子…11月は2度の3連休があり、また天気にも恵まれたため行楽客が多くなり、売上は前年同月比で増加。ただ収益は、原料・包材の値上により伸び悩んでいる。またバターの商品薄状態が続いており、今後の懸念材料である。
- ◇繊維製品（袋物）…円安の影響が、国内生産をもう一度見直す企画が出てきた。来春に向け国内生産と海外生産の色分けが進む様子がある。
- ◇木材…製品の荷動きは依然停滞感が強く、実需の盛り上がりは見られない状況。例年なら年度内完成物件の加工で忙しくなる時期であるが、今年はプレカット各社とも盛り上がりを欠いている。昨年11月は製品価格が上昇を始めた時期であるが、今年は気配が見られていない。
- ◇プレカット…消費税増税の反動で、前年同月比では15%の減少。12月は、加工予定もある程度入っている。
- ◇段ボール…だいたい前年並みのところが多いようである。暮れということもあり、少しではあるが物が動き出した感がある。ただ、資材が上ってきていて、今後収益に影響があると思われる。
- ◇焼物…秋口から地元笠間市内において多くのイベントを実施したが、期待したほどの収益は望めなかった。ますます景気は悪化している感じがする。国

に、地方の景気を少しでも上向きに転換する施策を打っていただかないと、どうしようもないところまで来ている。

- ◇鍍金…仕事量は前年比1割程度減少。自動車関係の部品、弱電（家電製品等）・電子部品関係については減少傾向。精密機械部品・建設機械も昨年ほどではない。建築・建設関係部品は前年並みで比較的好調。金属材料・工業薬品は高値水準で安定してしまった。なお、金属材料については、円安の影響で今後値上りがありそうである。燃料費は幾分下がっているが、電気料金の高止まりは経営に影響を与えている。
- ◇電化機器…当月生産高は、対前年同月比△192百万円（△21.4%）の706百万円。自動車、家電の両部門でも前年比マイナスの状況で、今年度期首より毎月マイナスを記録しており、上昇に転じる要因が見当たらない状況。
- ◇自動車部品…生産高はやや上昇傾向にあるが、まだ従前を下回っている。
- ◇工業団地（農機部品）…組合員の売上状況は、対前年同月比で組合員7社中2社が増加、5社が減少（全体増減率76%）。2014年度に入って、売上は対前年比マイナスを継続、且つ10・11月と70%台の減となった。反面、雇用人員は対前年比でプラスを継続していたが、11月度になり初めて4%弱の減少。苦しい経営状況は継続中である。

非製造業

- ◇セメント卸…袋セメントの出荷袋数は、前年同月比約7%の減少。建設業界での人手不足と採算割れの懸念から成約が進まないため、工事が少なく大幅減少となった。特に県北での工事が低調。
- ◇水産卸…精算所取扱高は、前年同月比4.53%の増。円安により輸入水産物の価格が上昇。冷蔵庫の在庫・入庫トンは、前年に比べ減少傾向で推移。
- ◇食品卸売…野菜に関しては単価安・数量減で推移。全国的に天候の影響をあまり受けず生産が順調となり、市場では品余りが起きている。白菜・大根等が特に単価安となっており、需要の増えるこれからの季節に消費者の手は伸びやすくなるだろう。果実に関しても天候に恵まれ生育が順調となり、単価安・数量増で推移した。特にみかん・柿が単価安となり、一方、輸入果実は円安の影響を受けて単価高・数量減となっている。
- ◇県南地区卸売…円安の影響により仕入れ単価の上昇が販売価格に転嫁出来ず、資金繰りが苦しくなった。
- ◇県北地区共同店舗…手を尽くしても売れず、競合等による外的環境よりも、景気の構造的問題の方が起因しているように痛切に感じる。

- ◇**県央地区共同店舗**…最寄り品は良いが、買回り品はまだまだ厳しい。12月に入り寒さが厳しくなってきたので、これから年末に向けて期待している。
- ◇**県南地区共同店舗**…核店舗の閉店セールにより若干売上が回復したが、客数の回復が鈍い。これまで前年比が大きく下がっている状況にあり、前年までは戻せない。
- ◇**家電**…年末商戦を迎えるが、11月としてはテーマを絞り展開したことにより、厳しいながら前年比をクリアする。12月に入り、さらに売上拡大を図るため全力投球をして行くが、選挙等の影響が懸念される。冬物商品も例年から見ると今一つのムードであるが、寒さ厳しくなり拡大されることを期待したい。
- ◇**中古自動車**…11月のオークション出品台数は、対前年同月比6.4%減と低迷。反面、成約台数は対前年同月比8.7%増と、年度初めより好調を維持している。
- ◇**農機具**…農家では、一部野菜農家を除いて収入が大幅に減り、購買意欲が極端に下がっている。農機具販売店は非常に厳しい状況が続く、苦戦が続いている。先行きを不安視する声も上がっている。
- ◇**石油**…円安にもかかわらず原油価格が急落している為、ガソリンの販売価格は前月比で6円値下りした。前年同月比では同値となっているが、需要減による売上減少のため一段と安値販売競争が激化しており、経営環境は依然として厳しい状況が続いている。この為、組合員数は減少の一途をたどっている。
- ◇**ホテル旅館**…鯨のシーズン、客足は昨年同様。観光バス料金の値上りにより、首都圏から県北への客数がかなり減少している。逆に県南の観光地や筑波山は来場数が増えている。まだ風評被害が続いている地域では、東電からの補償の個別対応について、予約等キャンセルの証明が出来ずに苦慮しているとの相談がある。
- ◇**自動車整備**…組合員事業場の車両入庫状況指数である継続検査台数(持込検査)の対前年同月比は、普通車95.1%、軽自動車93.2%と減少となった。

- ◇**総合建設**…先月と状況は変わらない。建設業は多忙、土木業は仕事不足である。足場材などの仮設材が不足し仮設工事が遅れている。仮設材を購入しても来年度以降の使用率が減少することが予測され、購入することも出来ない。同工種同時発注が原因である。設計価格の見直しも行われているがまだ実情に合わず、予定利益を確保するのが困難な状況である。
- ◇**県北地区運輸**…主要顧客の出荷物量は、総じて横這いにて売上減少。また、燃料価格は原油値下りの影響を受け下がってはいるものの、経営は依然厳しい。
- ◇**県央地区運輸**…秋冬物の切替につき、衣料品・雑貨の動きは平年通り。ホームセンター、電気店には年末にかけての売商品や家電の納入があり荷動きは良かった。建材・住宅メーカーの配送も平年通り。軽油価格も一時的に落ち着いてはいるが、収益見込みは無い。

H26.11月の業界天気図

業種	指数	売上		収益状況	
		前年同月比		前年同月比	
食料品業		0.0		▲ 33.3	
その他製造業		▲ 15.0		▲ 40.0	
卸売業		▲ 25.0		▲ 50.0	
小売業(商店街を含む)		▲ 36.4		▲ 54.5	
サービス業		0.0		0.0	
建設業		▲ 20.0		▲ 20.0	
運輸業		▲ 50.0		▲ 50.0	
全体		▲ 20.0		▲ 40.0	

【天気図の見方】 県内情報連絡員から毎月いただいている情報連絡票の景況項目について、「増加」(又は、「好転」)業種割合から「減少」(又は「悪化」)業種割合を差し引いた値(D.I値)をもとに作成しています。その基準は、下図のとおりです。

30以上	10~30未満	10未満~▲10	▲10超~▲30未満	▲30以上

※表の中の数値はD.I値





アクモス 株式会社

<http://www.acmos.co.jp>

— 人と技術と感動を —

プロフェッショナルサービスプロバイダーのアクモスグループです

<茨城本部> 〒319-1112 茨城県那珂郡東海村村松2713-7

TEL: 029-270-5555 FAX: 029-270-5531

	<p>本社</p> <p>東京都千代田区神田小川町三丁目26-8</p> <p>03-5217-3121</p>	<p>つくばオフィス</p> <p>茨城県土浦市卸町1-1-1 関鉄つくばビル2F</p> <p>029-834-3391</p>
---	--	---